

記者会見連絡票

所属部署（ 商工観光課 ）

タイトル																								
第三セクター「株式会社道の駅きつれがわ」の設立について																								
概要（発表内容を簡単に記入してください。）																								
<p>来年4月にリニューアルオープンする道の駅きつれがわを管理運営する第三セクター「株式会社道の駅きつれがわ」が設立しました。当社は、さくら市をはじめ計7団体が出資する法人で、人見健次さくら市長が代表取締役に就任しました。</p> <p>今後、オープンに向けて職員の採用・研修、ホームページの作成、また道の駅きつれがわの愛称を募集します。</p>																								
内容（発表内容のポイントを記入してください。別紙資料でも可能。）																								
<p>○商号 株式会社道の駅きつれがわ</p> <p>○本店 栃木県さくら市喜連川4 1 4 5 番地 1 0</p> <p>○設立時発行株式数</p> <table><tbody><tr><td>さくら市</td><td>9 3 0 株</td><td>4, 6 5 0 万円</td></tr><tr><td>塩野谷農業協同組合</td><td>2 0 株</td><td>1 0 0 万円</td></tr><tr><td>株式会社足利銀行</td><td>1 0 株</td><td>5 0 万円</td></tr><tr><td>株式会社栃木銀行</td><td>1 0 株</td><td>5 0 万円</td></tr><tr><td>烏山信用金庫</td><td>1 0 株</td><td>5 0 万円</td></tr><tr><td>氏家商工会</td><td>1 0 株</td><td>5 0 万円</td></tr><tr><td>喜連川商工会</td><td>1 0 株</td><td>5 0 万円</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1, 0 0 0 株</td><td>5, 0 0 0 万円</td></tr></tbody></table> <p>○設立時取締役及び監査役</p> <p>設立時取締役 人見健次（さくら市長）</p> <p>設立時取締役 稲澤高明（JA しおのや代表理事組合長）</p> <p>設立時取締役 中島啓安（足利銀行喜連川支店長）</p> <p>設立時監査役 江連敏夫（江連税理士事務所）</p>	さくら市	9 3 0 株	4, 6 5 0 万円	塩野谷農業協同組合	2 0 株	1 0 0 万円	株式会社足利銀行	1 0 株	5 0 万円	株式会社栃木銀行	1 0 株	5 0 万円	烏山信用金庫	1 0 株	5 0 万円	氏家商工会	1 0 株	5 0 万円	喜連川商工会	1 0 株	5 0 万円	合 計	1, 0 0 0 株	5, 0 0 0 万円
さくら市	9 3 0 株	4, 6 5 0 万円																						
塩野谷農業協同組合	2 0 株	1 0 0 万円																						
株式会社足利銀行	1 0 株	5 0 万円																						
株式会社栃木銀行	1 0 株	5 0 万円																						
烏山信用金庫	1 0 株	5 0 万円																						
氏家商工会	1 0 株	5 0 万円																						
喜連川商工会	1 0 株	5 0 万円																						
合 計	1, 0 0 0 株	5, 0 0 0 万円																						

○代表取締役

人見健次

○事業年度

当社の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

○会社設立

平成28年8月12日

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先（所属、担当者名、電話番号）

さくら市産業経済部 商工観光課 028-686-6627

※ 1案件ごと1枚作成してください。

◇第三セクター設立の概要

① (商号) 株式会社道の駅きつれがわ

② (本店) 栃木県さくら市喜連川4 1 4 5 番地1 0

③ (設立時発行株式数)

さくら市	普通株式	930 株	4,650 万円
塩野谷農業協同組合	普通株式	20 株	100 万円
株式会社足利銀行	普通株式	10 株	50 万円
株式会社栃木銀行	普通株式	10 株	50 万円
烏山信用金庫	普通株式	10 株	50 万円
氏家商工会	普通株式	10 株	50 万円
喜連川商工会	普通株式	10 株	50 万円
合計	普通株式	1000 株	5,000 万円

④ (取締役の員数)

当会社の取締役は、3名以上とする。

⑤ (監査役の員数)

当会社の監査役は、1名以上とする。

⑥ (設立時取締役及び設立時監査役)

設立時取締役	人見健次 (さくら市長)
設立時取締役	稲澤高明 (JAしおのや代表理事組合長)
設立時取締役	中島啓安 (足利銀行喜連川支店長)
設立時監査役	江連敏夫 (江連税理士事務所)

⑦ (代表取締役)

人見健次

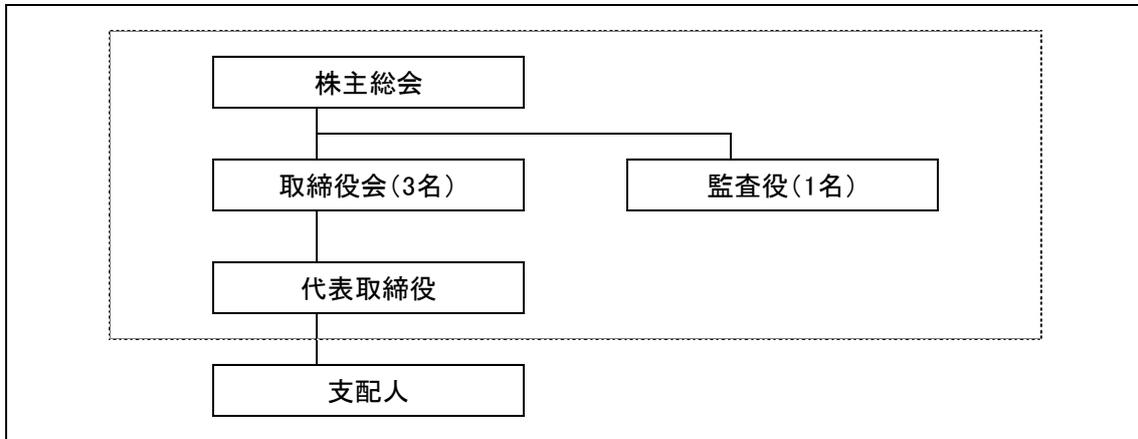
⑧ (事業年度)

当会社の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

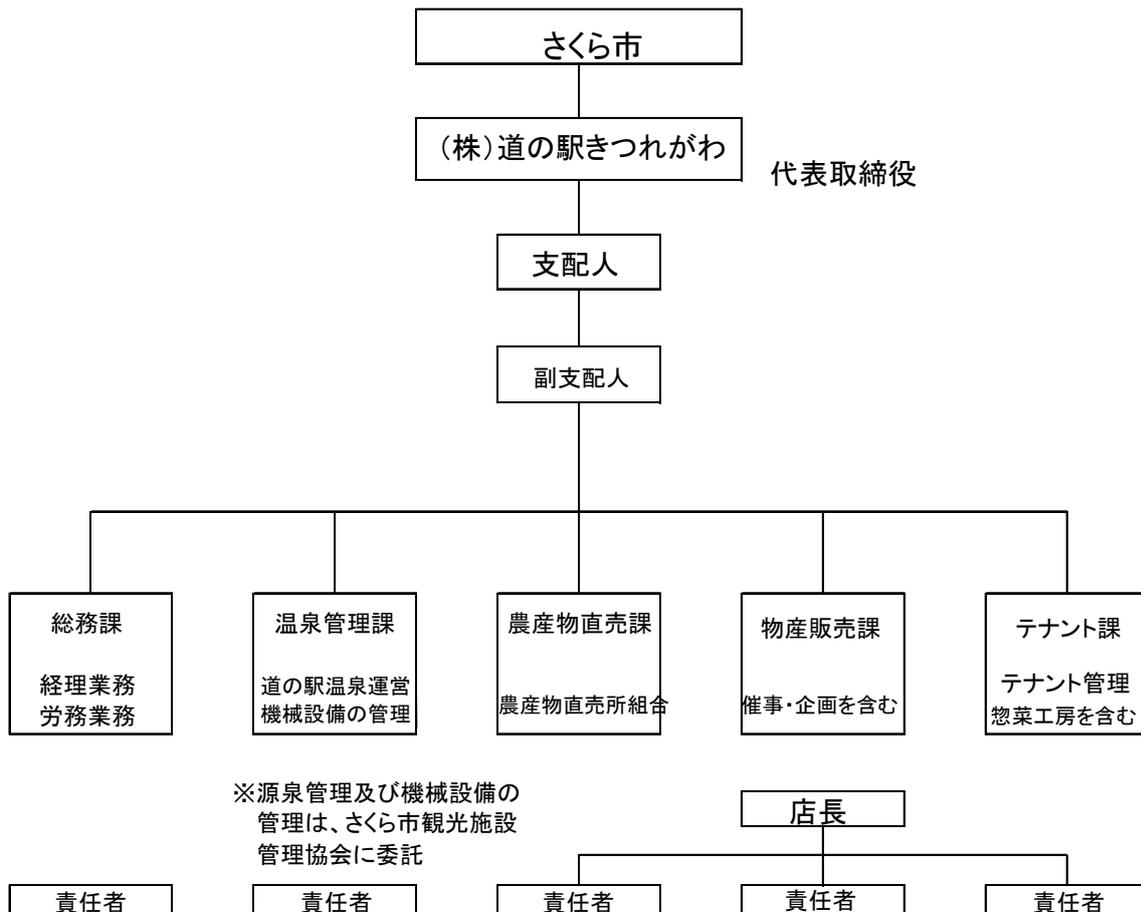
⑨ (会社設立)

平成28年8月12日

法人形態及び役員構成



(株)道の駅きつれがわ 組織図



○事業計画について

1. 経営方針

- ①『さくら市の良さを伝えるふれあいの場づくり』という公共性の確保
- ②地産地消の地元へのこだわり
- ③企業としての存続のための適正な利益の確保
- ④売上高と適正利益の確保のため、低コスト経営を目指す。

初年度に十分な準備を計画しているが、2年度（開業後1年目）は、想定外の事案が発生する可能性もあるが、既存の施設のデータを参考に、県内の道の駅の状況を把握し対応を図る。また、スタッフの叡智を結集し、県内道の駅の中かの注目される施設になれる様、全力で取り組むものである。

3年度は（開業後2年目）には、2年度1年間の実績と計画を比較検討し、軌道修正を行いながら、4年度（開業後3年目）に、きちんとした成果が残せる様、安定した経営を目標に取り組む。

リニューアル道の駅は、道の駅専用のホームページを開設し積極的に道の駅の情報の発信・宣伝を心掛け、魅力ある企画・イベントの提案を実行します。

特にイベントについては、さくら市民参加による地域イベントの活性化を進めるとともに、規模の大小を問わず”賑わいのある道の駅“の期待感に応えられる企画・演出を展開する。

常に斬新な”道の駅”としての提案を更新し、”おもてなし“を重要視する道の駅として、話題性・商品力・販売サービス力の向上を第一に取り組んで参ります。

2. 会社の創業費・開業費・運転資金見込

単位（千円）

創業費	1,000	法人登記料・司法書士手数料ほか
開業費	9,500	広告費・竣工式・駐車場警備・制服ほか
（設立から開業まで）	15,000	人件費・研修費
	3,000	通信費・交通費・消耗品費
開業後の販売管理費	21,500	
合計	50,000	資本金調達

3. 営業コンセプト

①農産物直売施設については、**新鮮で安全・安心(生産者の顔が見える)な農畜産物を基本**とし、通常の出荷品においては、市場価格より安価な価格設定求められる。また、近隣の直売所の価格・品質を意識しながらの価格設定が必要である。ただし、こだわりの有機野菜、低農薬・減農薬野菜については、その限りではなく価値に見合う価格設定に対応する。

②”オンリーワン“の道の駅を目指して、ここでしか買えない農畜産物、物産品を生み出す必要がある。結果として、ここでしか買えないモノがあふれる売り場づくりを目標に品揃えを実行する。

③従来の”道の駅きつれがわ“は、温泉施設の魅力と新鮮な野菜の直売所を目的に訪れるお客様が多かったが、今後は新規に展開する和食レストラン・フードコートの各店舗の出店により、**地元食材を活かした健康で魅力あるメニューの提案や時間をゆっくりとすごせる環境改善**により、滞在時間を長く延ばすことにより一人当たりの購買単価のアップを目標とする。また、惣菜工房の展開で**地域の女性スタッフが力を発揮できる環境づくり**に配慮し、道の駅の新たな魅力の発掘に繋げる。

④道の駅きつれがわは、さくら市の持つ親しみやすい素朴さと里山風景に代表される懐かしい原風景に触れることが出来る癒しの空間である。温泉施設で楽しみ、水辺公園で家族が集い、歴史を学べる、多種多様なニーズに対応できる道の駅として大きくアピールすることが集客に繋がるものと確信する。

<基本コンセプト>

～立ち寄る場所から目指す場所～

“癒しと食と情報の交流拠点”

4. 管理・運営

(1) 管理・運営主体

官民共同出資による第三セクター“株式会社道の駅きつれがわ”

総事業費	786,274,000 円
さくら市整備分	558,705,000 円
農水省交付金	227,569,000 円
	(農山漁村振興交付金)

(2) 施設概要

① 駐車場・車路

単位：台

	大型車	普通車	身障者用	合計
現行	7	179	2	188
新道の駅	9	220	4	233
将来	14	300	4	316

② 休憩施設（トイレ）

単位：器

栃木県整備			本館ターミナル			新館			合計		
男性	女性	多目的	男性	女性	多目的	男性	女性	多目的	男性	女性	多目的
大2	9	1	大2	3	2	大2	3	1	大6	15	4
小5			小4			小3			小12		

(3) 地域連携施設

・ 交流イベント施設	交流会議室	117.00 m ²
	ラウンジ展示スペース	198.06 m ²
	和室前展示スペース	26.19 m ²
	キャノピーイベントステージ	47.52 m ²
・ 温泉施設	浴室	318 m ²
	クアハウス	653 m ²
・ 農産物直売施設（直売施設・物産施設）		401.20 m ²
・ 農産物加工施設（惣菜工房）Manma Delika		36.76 m ²

・食材加工提供施設(レストラン・軽食・フードコート)	
レストラン (桔梗)	52.53 m ²
軽食 (あさの・竹末・鱒屋) 3店舗	54.69 m ²
パン工房 (温泉ぱん)	68.34 m ²
アイス工房	48.51 m ²
フードコート (新築棟111.1 m ² ・既存棟133.62 m ²)	
	合計 244.72 m ²
和室	60.70 m ²
・付帯施設 (事務室・業務用トイレ・倉庫・廊下等)	
新築棟	249.97 m ² 既存棟 76.76 m ²
ギャラリー	13.96 m ² 授乳室 7.42 m ²
プレハブ冷蔵庫	25.59 m ² 倉庫 25.41 m ²
・軒下市場	141.60 m ²
・物販エリア面積(フードコート・和室含む)	1,109.05 m ²

(4) 屋外施設

- ①広場・公園
- ②調整池
- ③ヘリポート

(5) 事業主体・整備区分・整備財源

- ①道路管理者が整備する施設
- ②さくら市が整備する施設

(6) 施設の管理・運営方針

区分	管理・運営方針
施設全体の管理・運営	管理：株式会社道の駅きつれがわ（所有者であるさくら市より指定管理者として受託） 運営：株式会社道の駅きつれがわ
農産物直販施設 (直売施設)	第三セクターの直営とし、地元産農産物の直接販売（生産者との委託契約方式）を採用する。 既存の組合を解消し、新規に“直売所組合”を結成。 組合幹部にJAが参加。JAとの取り組みを協議中。 ※仕入れ部門の強化により、旬の野菜・果実などの展開に取り組む。

農産物直販施設 (物産施設)	第三セクターの直営とし、地元特産品（市内で製造される加工品・工芸品等）の直接販売 (生産者との委託契約方式) 日光・那須などの県内有数の観光地との取り組み 観光客に対応できる”土産品“の強化を図る。
農産物加工施設 (加工施設)	惣菜工房、アイス工房、パン工房はテナントとし、地元産食材を利用した惣菜、ジェラート、パンを製造する市内業者との取り組みを強化する。
食材加工提供施設 (レストラン・軽食コーナー)	レストラン・軽食部門についてはテナントとし、地元産食材を利用した和食、ラーメン、丼類、鯛やき等を製造する市内業者との取り組みを強化する。 各テナントについても、メニュー開発を共同で取り組む。
温泉施設（新規）	道の駅施設内の温泉施設の窓口業務を主に取り組む。なお、機械設備等の管理は引き続き、“さくら市 観光施設管理協会”に委託する。温泉施設の収入については利用料金制度を導入する。
観光案内（新規）	さくら市より委託を受け、本館ターミナルを拠点にさくら市の観光案内を承る。なお、併せて温泉施設の窓口業務を担当する。また、地域の観光ボランティアとの連携を図りながら地域の情報発信を行う。 魅力ある観光案内に取り組む。

5. 各施設の運営方針（案）

〈営業日〉

毎月	2日休業	(第2・4月曜日予定)
年末年始休業	1日	1月1日
年間営業日数	340日	

〈営業時間〉

農産物直売所	401.2㎡	9:00～18:00
物産・特産品	※物販エリア(農産物・物産・特産含む)	
※夏季(6月～8月)	9:00～19:00(要検討)	

レストラン（和食）	52.53 m ²	11:00～21:00
飲食①（麺類等）	20.22 m ²	11:00～20:00
アイス工房	48.51 m ²	10:00～18:00
飲食②（丼類等）	18.83 m ²	10:00～18:00
惣菜工房	36.76 m ²	9:00～18:00
飲食③甘味類等	15.64 m ²	10:00～18:00
温泉施設（浴室）	318.0 m ²	10:00～23:00
（クアハウス）	653.0 m ²	10:00～20:00

6. 要員計画

社員 5名

契約社員 5名

パート社員 20名（レジ、品だし、温泉受付、清掃）

合計 30名

7. 利用者見込および売上の検証

80万人（地元 65% 観光客 35% 温泉客 15万人を含む）

国道293号線 1日当たり交通量 14,000台

道の駅利用率予測 10%

平均乗車率 1.4人

1日当たり利用者数 1,960人×340日（営業日数）

初年度売上 640,000千円

客単価 960円

物産エリア面積 1,109.05 m²

m²あたり売上 577千円

◇リニューアル道の駅 テナント概要について

既存棟（ターミナル本館）

①”割烹 桔梗“（さくら市櫻野）

割烹日本料理の店舗であり、素材の味を活かせるよう素材にこだわると共に、季節感や彩りを大切にしている人気店である。温泉施設の営業時間を考慮し、午前11時から午後9時までの営業を予定。

ランチタイムは天井・日本そば（限定数）・氏家うどん（認証店）など千円を目安に提供。限定メニューとして懐石弁当なども検討中。

夜の営業はアルコールと酒肴を含めた展開で地域の集いの場を目指す。地産地消にも積極的に取り組み、季節の地元産メニューなど期待できる。

②Gelateria KITS（さくら市喜連川）

現在、営業のアイス工房きつれがわが新名称“Gelateria KITS”

としてさらに素材にこだわり、季節限定・新作にも精力的に取り組んでいます。

道の駅ではジェラートは人気のバロメーターであり、今後は“道の駅限定”の

メニュー開発など、道の駅の方向性に理解を示している。

姉妹店（宇都宮市）を含めて支持する顧客の拡大も大きく期待できる。また、ドリンクメニュー（エスプレッソコーヒー・コーヒー）も充実の予定。

新築棟

③惣菜工房 ManmaDerika

地元女性スタッフが中心となって、地産地消をテーマに惣菜・弁当の提供を行う。地元の郷土料理・家庭料理など素朴ではあるが地域色のあるおふくろの味を中心に提供する。直売所の農産物・畜産物を利用した惣菜・弁当など地元色を

前面に“道の駅らしさ”の雰囲気演出する。

④パン工房 温泉ぱん（株）（さくら市早乙女）

喜連川の代名詞的な店舗であり、近くに本店の工場があるので焼き立てパンにこだわり、道の駅限定のパンの開発も積極的に取り組む姿勢が魅力である。

今回、地元の食材を活かしたサンドイッチの展開とスイーツを意識したデザ

ートパンも提供する。パンは地元だけでなく、遠方を含めたりピーターの創出が期待できる店舗であり、新築棟の顔として協力体制を推進できる店舗である。

⑤あさの牧場（さくら市南和田）

栃木が誇るブランド豚“あさの豚”をさらに、6次産業化の柱としてブランド構築を推進していく。安心・安全・新鮮な豚肉の精肉コーナーと別に、メンチカツなどの惣菜と豚丼・焼肉丼などのどんぶりを提供する。“あさの牧場”の第二ステージとして道の駅においてフードコートを盛り上げる。

⑥ラーメン専門店 竹末（さくら市喜連川）

今や、喜連川だけでなく広く認知されている人気のラーメン専門店。喜連川本店・自治医大店・FC1号店のCAROL（宇都宮市）・墨田区業平の竹末東京プレミアム・鹿沼店の5店体制で、幅広いネットワークを形成している。

営業時間も夜8時までの営業で取り組む予定である。道の駅のウィークポイントである夕方からの閑散とした時間帯の起爆剤となることが期待できる。

今後、竹末ファンの取り込みと道の駅限定メニューの提案などが魅力である。

⑦たい焼き 鱧屋（さくら市喜連川）

現在、道の駅を代表する”たい焼き屋さん“であり、地元はもとより、遠方からたい焼きを目当てに道の駅にいらっしゃるお客様も多く、幅広く地域に愛された店舗である。また、行列ができる人気の甘味である。たい焼きもオリジナリティーを迫及する商品は、他の追随を許さない独特の甘味である。お土産としての魅力もある店舗である。

リニューアルに際し、新規メニューの開発などを検討中である。

軒下市場

⑧喜連川漁業生産組合（さくら市葛城）

さくら市の鮎の養殖生産量は全国トップクラスにあり、今回リニューアル道の駅のお奨めアイテムの一つとして、強力に推進する予定のなかで、“鮎”にスポットをあてる。那珂川水域の恵まれた喜連川の地で鮎の養殖を始めて以来、天然鮎に近い鮎を生産し、活鮎・生鮎・手づくりで仕上げた贈答品等を生産・加工・販売している実績のある取引先であり、信頼に値するものである。

炭火焼鮎・鮎から揚げを主力に展開する。また、イベントで”鮎のつかみ取り”など参加型の企画を検討している。